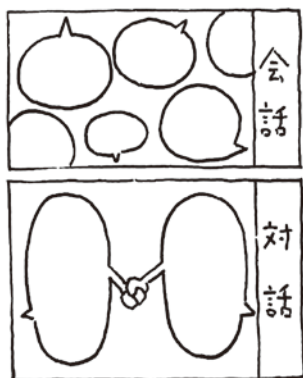


知っておきたい3つのキーワード

対話



べちゃくちゃと自分のことを話すのは「会話」ですが、互いの考えや思いを知って理解し合うことを「対話」と呼びます。友だちや仲間、時には良いライバルになるような関係が生まれることが、協働のまちづくりにはとても重要です。

協働



スイカに塩、のように意外な組み合わせが予想しない素晴らしい効果を生みます。まちづくりでも、小学生と高齢者、市役所職員とパパやママなどいろいろな立場の人ができることを持ち寄り、問題に取り組むことが協働です。普段から「今日どう？」などの声掛けも大切です。

シチズンシップ



スポーツマンシップに似ていますが、シチズンとは市民のことで、市民としての意識のことをそう呼びます。地域のことを自分ごととして積極的に参加していく意識や行動力は、スポーツマンシップ同様、周りの人の感動をさそい、地域を元気にします。

このパンフレットの登場人物



暮らしている人

市内に住んでいる人のことです。

まちづくりで活躍するのは、暮らしている人だけでなく、尼崎にかかわるすべての人です。まちを楽しくしたり、おこまりごとを解決するには、幅広い人々の参加が必要です。性別や年代をこえて、いろんな立場の人が一緒に考えることで化学反応が生まれるかもしれません。

でばんですよ!

尼崎市自治のまちづくり条例読本

わたしたちのまち尼崎には45万人もの人がともに暮らしています。いろいろな立場や考え方の人たちが一緒になって、まちのおこまりごとを解決したり、楽しいことを生み出したり、「ここで暮らしていてよかった」と思えるまちにするために、「わたしたち一人ひとりができることって? さあ、今こそあなたの出番ですよ。」



事業所

市内で事業をしている人々や団体のことです。営利目的以外の社会貢献にとりくむ事業者もたくさんいます。



働いている人

市内に通動している人も市民です。



市民活動団体等

町内会や NPO など、市内でだれかの役に立つ活動に取り組む人々や団体のことです。



学んでいる人

市内の学校などに通っている学生や生徒のことです。



市長・市役所職員

市長や教育委員会などの市の執行機関、そして市の職員のことです。

自治のまちづくり条例って何?

「自分たちの地域をよりよくするのは、私たち一人ひとりなんだ」という自覚を持って人々が取り組むことを「自治」といいます。実はこれって昔は当たり前の感覚だったのですが、社会の仕組みが発達する中で、どんどんと人々の意識やつながりが薄れてきました。しかし、大規模な災害などを体験して、わたしたちは改めてその大切さに気づいています。この条例はそんな思いを共有し、将来にわたって尼崎市で自治のまちづくりをすすめるために作られました。

みんなで大切にしたいこと

まちづくりは、わたしたちの身近な生活にかかわるもので、自らその情報を得ることができ、自分の意思で好きな時に好きな分野に参加することができます。次に、権利を主張するだけでなく自分の発言や行動に責任を持ち、自分と違う考えの人を理解しようとしてみましょう。違った考え方の人に出会うとはじめはギョツとするかもしれませんが、普段から様々な人と顔見知りになっておくと、その違いをじっくり味わうことができます。それは子どもでも大人でも関係ありません。子どもでもできること、子どもにしかできないことを尊重することで、思ってもみなかった問題解決につながるかもしれません。また事業者もこの輪に加われば、新しい解決方法が生まれることも期待できます。

まちづくりに参加するには？

まずはまちを知り学ぶところからまちづくりはスタートします。次にそのことについてだれかと話してみよう。一緒に活動する仲間探します。こうして少しずつできることが広がっていきます。

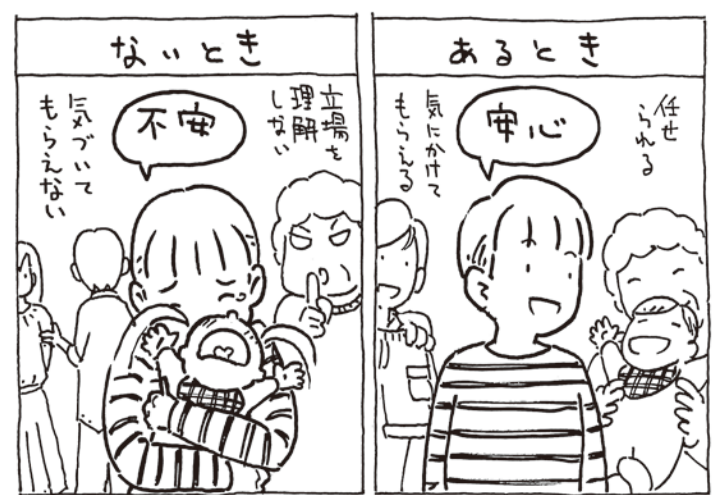


市役所が取り組むお約束

市役所職員も市民として自覚をもって仕事をします。とはいえ公務員なので中立公正が基本。尼崎で起こっていることに関心を持ち、立場や役職にとらわれず、市民と意見を交わし一緒に解決方法を考えます。無理な注文には毅然とNOとも言います。もちろんできない理由も説明します。



地域コミュニティって何ですか？



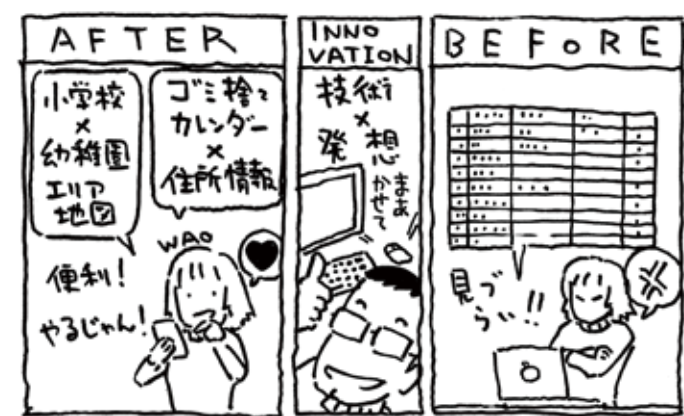
自治のまちづくりをすすめるための基盤となるものです。ご近所さんのつながりといった地縁的なものだけでなく、子育てやお年寄りの見守り、防災といったテーマで地域をよくしようというつながりも含まれます。地域コミュニティはすでに市内にたくさんあるので、自分の地域や関心にあわせて探してみましょう。

市役所が変わる！



「お役所仕事」「タテワリ」など、市役所や職員を批判する言葉はたくさんありますが、尼崎市役所は部署をこえて、自治のまちづくりに取り組む人々の声を受け止めて、どうすれば実現できるのかを考えます。

市役所の情報もっと使おう！



市役所には尼崎に関する膨大な情報やデータが貯められています。実はこれってすごいお宝。これからは市民の皆さんがまちづくりに役立てることができるよう、もっとオープンにしていきます。交通事故の発生場所、バスの時刻表、保育所の分布図といったものを、IT の力で上手く組み合わせることで、まちの問題を解決するための材料に生まれ変わることも。ただし、オープンにすることで、市民のだれかがこまるような情報は対象としないのでご安心を。

